

これだけは知っておきたい 「羽毛ふとんの価格の秘密」



羽毛ふとんメーカー「安心堂」の若社長「安心くん」。
羽毛ふとんのことや原料の羽毛の事などを、皆様にわかりやすく解説します。
今回は、羽毛ふとんの価格について…。

羽毛ふとんの価格は、安いものでは1万円以下、上を見ると100万円以上のものまであります。では、1万円の羽毛ふとんと高級羽毛ふとんはどこが違うのでしょうか。

羽毛ふとんに使用されるダウンは、完全に成熟した親鳥の胸元から脇までの羽毛が最適とされています。羽毛ふとんの需要が少なかった時代は、この羽毛だけを使用してふとんが作られていました。今ではこの親鳥羽毛だけを使用すると大変高価なものになります。

しかし、ずいぶん前から市場には1万円の羽毛ふとんがあります。羽毛ふとんが普及し大量生産が出来るようになったから安くなった。と思いがちですが、実は、そうではありません。テレビや電子レンジのような工業規格品は、大量生産することにより価格は下がります。しかし羽毛は食肉の副産物であるため羽毛ふとんの需要が増えたからといって羽毛の生産量が増えるわけではありません。逆に水鳥を食する人口は減少しチキンを食する人が増え、以前のような良質の羽毛は年々減少し価格は上昇傾向にあります。とすると、1万円という低価格の羽毛ふとんがどうして出来るのか疑問になります。それは、本来、羽毛ふとんに使用しなかった北京ダックの料理に使用されるような飼育期間が一ヶ月にも満たない鳥の羽毛を使って作られるように

なったからです。

このような羽毛が使われるようになった背景には、ダウン率競争と価格競争にあります。フェザーよりもダウンの方がはるかに高価なため同じ品質のダウンを使用すればダウン混合率が高いものほど当然の如く高価なふとんになります。昔の羽毛ふとんは、ダウン混合率が60%や70%が主流でした。しかし羽毛ふとんの品質の目安がダウン混合率であるかのような間違った考え方が先行した事から、今まで使用しなかった飼育期間の短い低品質な羽毛の使用を誘発することになりました。その結果、表示上はハイダウンであっても、一万円程度の羽毛ふとんが市場に出回ったのです。

しかし、昨年からの羽毛原料の値上がりで低価格ゾーンの羽毛ふとんも、一時一斉に価格が上がったところで、今はまた低価格なふとんが出回り始めたのです。業界で色々と調査を行いました。すると、そこに浮上してきたのが中古の羽毛です。中古の羽毛が悪いとは言いません。ただ中古の羽毛を使用し新品と偽って売ることが問題なのです。日本羽毛製品協同組合のゴールドラベルのついた羽毛ふとんには、中古羽毛の使用は認められていません。ただ安いというだけで飛びつく、とんでもない目に遭うかもしれません。



日本羽毛製品協同組合

日羽協ニュース

〔編集発行〕日本羽毛製品協同組合

〔事務局〕〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町3-12-4白鷺ビル7階

TEL 03-5649-2285 FAX 03-5649-2286 ホームページ <http://www.nichiukyo.org>

第20回日本・中国・台湾三方羽毛会議が開催されました。



日本からは日本羽毛製品協同組合加盟社及び関係者22名、主催国中国から中国羽绒工業協会関係者154名、台湾から台湾区羽毛輸出業同業公会関係者66名、合計242名が参加し、情報交換や市場報告が行われました。

平成26年9月2日の会議では中国羽绒工業協会の姚小蔓理事長、日本羽毛製品協同組合の柳場弘理事長の挨拶の後、各国から羽毛市場につ

いての報告があり、日羽協からは日本における羽毛市場の現状や現在抱えている問題点を説明いたしました。

高級羽毛原料の供給不足に加え、原料価格も高値を維持している状況下、懇談会、懇親パーティ会場において、中国・台湾の主要羽毛原料メーカーから直接情報を得られるまたとない機会として、積極的な情報交換が行われました。

羽毛製品アドバイザー派遣を行っております

【羽毛ふとんの知識啓発事業】

日羽協では、消費者関係機関等において、消費者の皆様を対象として実施されている消費者講座などに、「羽毛製品アドバイザー」を派遣し、「羽毛製品の正しい知識、選び方、取扱い方」などの疑問にお答えすると共に、羽毛製品を正しくご理解をして頂く活動を実施しており、既に参加された受講者の方々から好評頂いておりますので、是非ご利用くださいますようご案内申し上げます。

1. 主な講座内容

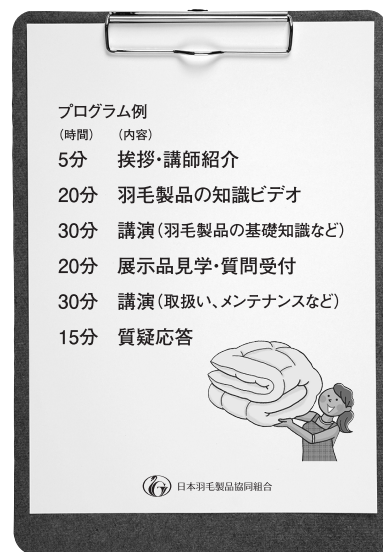
羽毛製品（羽毛ふとん、ダウンウェア関係）の品質と価格、製品の選び方及びリフォームなど羽毛製品全般

2. 講師派遣に関する費用及び人数

講師派遣に関する費用は無料。ただし、会場設営等に関しては、主催者側でお願い致します。参加者人数は、約20名以上。講演時間は、約120分程度です。

3. 講師派遣申込み方法

当組合にご連絡ください。開催ご希望日、場所等に応じアドバイザーを派遣致します。各消費者関係機関での通年行事として、定期的な講演も承ります。電話 03-5649-2285



最近の講師派遣実施日

主催／場所

平成25年6月20日

京田辺市消費生活相談室(京田辺市立社会福祉センター研修室)

平成25年7月16日

京都府消費生活安全センター(京都テルサ東館会議室)

平成26年2月25日

豊橋市安全生活課(豊橋市役所東館会議室)

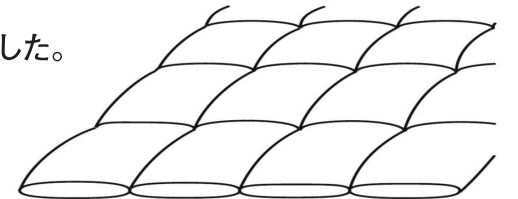
羽毛ふとんの仕立てについて

羽毛ふとんの仕立てには大きく分けて、平(ひら)キルト、立体キルト、特殊立体キルトの3種類があります。また、昨今ではこの種類のどれに当てはまるか微妙なキルトもあります。それぞれのキルトの機能を生かした使い方で、羽毛ふとんをお選びください。

1. 平キルト

表生地と裏生地を直接縫製する方法です。

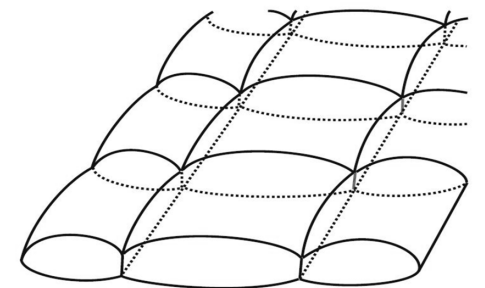
- 現在、肌掛けふとんに多く見られます。
- 30年ほど前まではこの縫製方法で掛けふとんも作られていました。
- 表生地と裏生地を直接縫い合わせている為、縫い目から熱を逃がしてしまいがちで、保温性に欠けます。



2. 立体キルト

表生地と裏生地の間に立体の壁に当るマチ布を縫いつけ、表生地と裏生地を離して立体的に仕上げたキルトです。

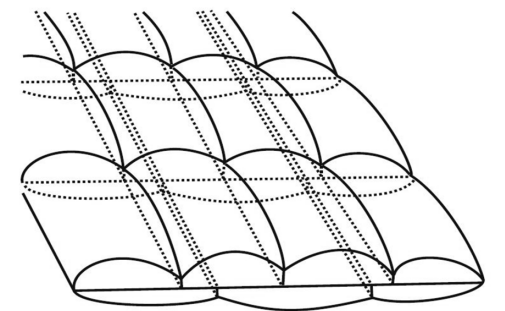
- 現在主流のキルトで掛けふとんに多く見られる縫製方法で
- 各部屋が立体構造なので羽毛が隅々まで入り込み保温力が均一で安定します。
- 羽毛の種類に合わせマチ布の高さを自由に設計でき羽毛の特性を表現できます。



3. 特殊立体キルト

立体キルトをベースにしてさまざまな付加価値を付けた縫製仕様です。中生地を利用した二層式キルトなど各種特殊立体キルトが多数あります。

- マチ布の形状を工夫することにより保温力を上げる効果があります。
- 表生地と裏生地との間に中生地を入れて2層にし、保温力を上げる仕様です。
- マチの縫製に特殊な技術が用いられ、マス間の羽毛が移動しない完全立体キルトもあります。



羽毛ふとんの特性について。

軽くて温かいことから重宝される羽毛。

今回はそんな羽毛ふとんの人気の理由をご紹介します。

- 1. 高い保温性** 羽毛は空気をたくさん含むことができます。空気は断熱効果に優れているので羽毛は暖かいのです。
- 2. 軽量素材** 羽毛はとても軽いので睡眠自体への負担が少なく、よい睡眠を得られます。
- 3. 高い吸湿性** 羽毛は身体から出る汗などの湿気を吸収してくれる素材のため蒸れにくいです。
- 4. 手間要らず** 羽毛は吸い取った湿気を発散する力があるため、頻繁に日に干す必要がなくお手入れが簡単です。
- 5. 経済的** 羽毛は長期間使用しても綿や羊毛などのようにへたったりフェルト化しにくい素材です。定期的に丸洗いクリーニングし、必要に応じて側地交換などの「リフォーム」を行えば、長くご使用いただけます。

羽毛ふとんの暖かさを左右する ダウンパワー dp

羽毛の膨らむパワーを数値化したものがダウンパワー **dp** です。ダウンパワーの数値の高さは、[ふとんが膨らむ＝保温力が高い]という暖かさの目安になります。

日本羽毛製品協同組合ではゴールドラベル(品質推奨ラベル)を発行しております。このラベルは、当組合の品質基準項目(組成混合率、かさ高性、洗浄度、酸素計数)に合格した羽毛原料であることを表します。

ゴールドラベルには4種類あり「ニューゴールド」「エクセルゴールド」「ロイヤルゴールド」「プレミアムゴールド」の順に羽毛のレベルが高くなります。

羽毛ふとん購入の際は日本羽毛製品協同組合発行のゴールドラベルを参考にお選びください。



ニューゴールド



エクセルゴールド



ロイヤルゴールド



プレミアムゴールド

羽毛ふとんの省エネ効果。

冬場と夏場のエアコンの CO2 削減効果の比較

例えば、外気温6℃のときにエアコン(2.2kw、1日9時間使用)の暖房設定温度を1℃下げて、21℃から20℃にした場合、年間のCO₂削減量は約18.6kgになります。

年間で電気53.08kwhの省エネ→電気代削減額は1,170円。

一方、外気温31℃のときに、エアコン(同上)の冷房設定温度を27℃から28℃にした場合、年間のCO₂削減量は約10.6kgになります。従って、冷暖房兼エアコン1台当たりでは、CO₂削減量は暖房の設定温度を下げる方が、冷房の設定温度を上げるよりも効果があるといえます。

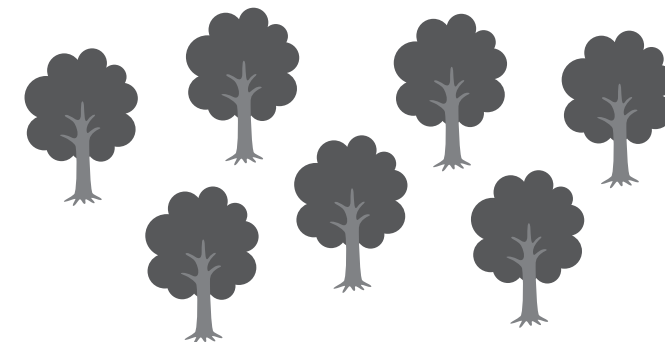
羽毛ふとんを使い、暖房時の室温設定を4℃下げて20℃とすると得られる省エネ効果

●冬の暖房設定温度の平均温度である24℃設定から20℃に下げた場合

年間の電気代削減額は 1,170円×4ヶ月= **4,680円**
(ブナの木約7本分)

CO₂ の削減量は 18.6kg×4ヶ月= **74.4kg**

→ ブナの木約7本分の植樹をした効果に相当



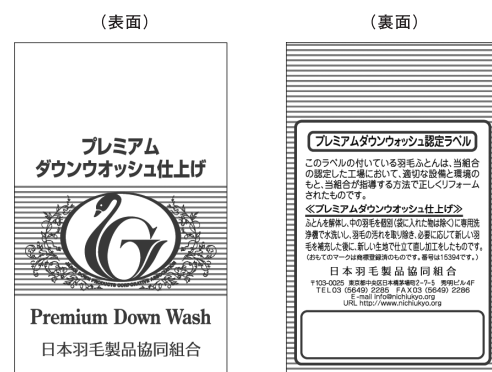
出典：家庭の省エネ大辞典 2011【一般財団法人省エネルギーセンター】

羽毛ふとん「リフォーム」のおすすめ

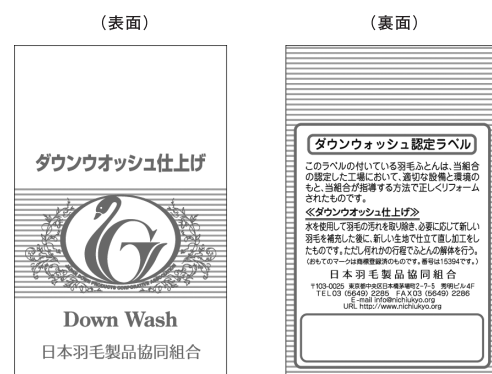
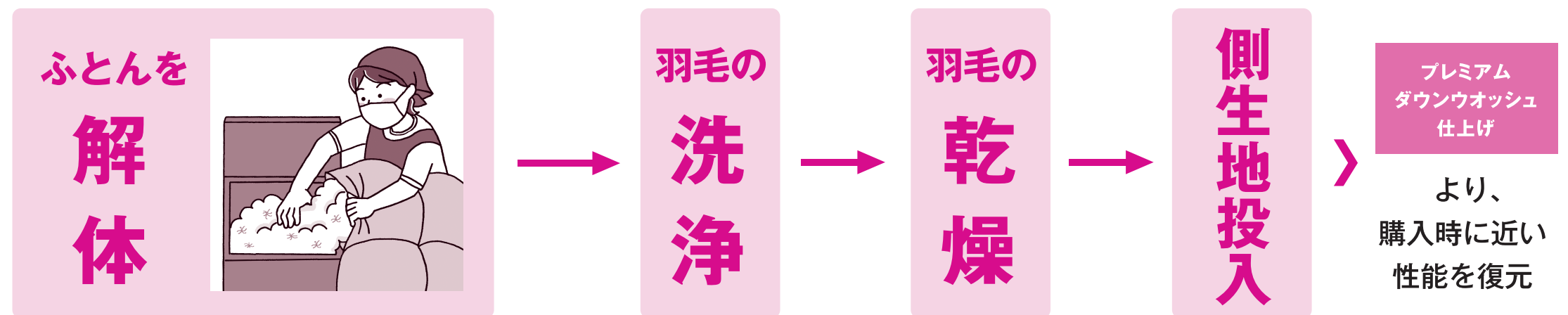
長年お使いの羽毛ふとん、側生地が傷んできたり、昔に比べてふんわり感が少なくなってきたりしていたら、「リフォーム」がおすすめです。現在、羽毛は世界的に産出量が減り続け、反対に需要が高まっています。そこで注目されているのがリフォームです。ここでは、限りある資源を有効に活用できるリフォームの行程をご説明します。

長年使用した羽毛ふとんの機能を甦らせる「リフォーム」。

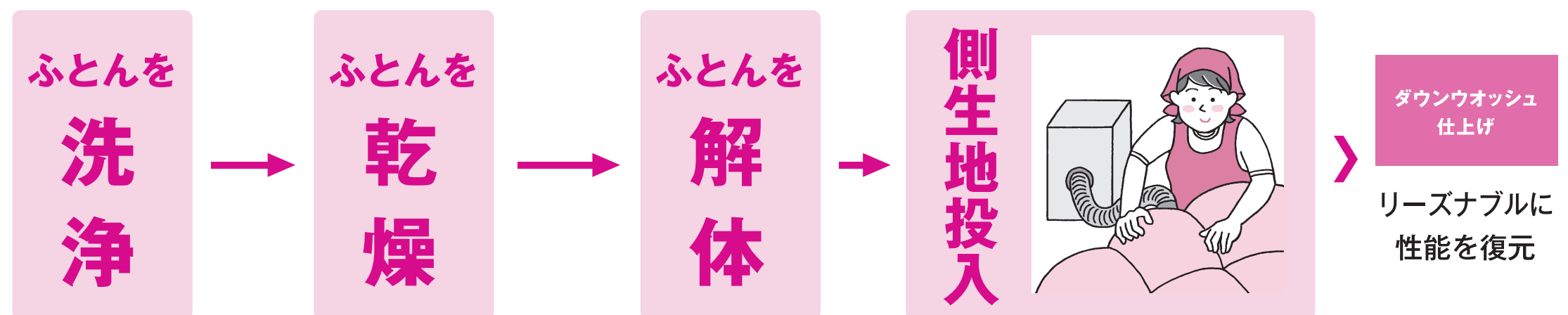
リフォームでは、羽毛をきれいに洗浄し、損傷した羽毛やホコリを取り除き、目減りした分の羽毛を補充したうえで、新しい側生地に再投入します。行程により、2つの方法があります。



プレミアムダウンウォッシュは、羽毛自体を直接、洗浄、乾燥させるので、汚れが落ちやすく、壊れた羽毛も洗い流し、新しい羽毛を補充するため、ご購入時に近い状態で羽毛の性能を復元することができます。



ダウンウォッシュは、まず、羽毛ふとんを丸洗いします。ふとんの中に羽毛が入っている状態で洗浄するので、直接羽毛を洗うよりも手間がかかりません。通常の丸洗いと異なり新しい羽毛も補充いたします。



日本羽毛製品協同組合の認定工場では、上記リフォームをしっかりと区別して行っています。安心してリフォームに出していただけるよう、リフォーム後の羽毛ふとんには、上記のラベルを縫い付けてお客様の元へお返しいたします。羽毛ふとんのリフォームは、日本羽毛製品協同組合

の認定工場にご用命ください。

認定工場は、日本羽毛製品協同組合ホームページでご確認いただけます。

www.nichiukyo.org